midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

11月号の１枚：WWFジャパンの取材をうけるお花畑班のメンバー

森林の誕生と人類

勝手な自然破壊を続けて行くなら５回目の大変動を見ることになる

水の星・地球の誕生は約４０億年前。生命体原型は有機分子アミノ酸類の海だけと言われている。宇宙の様々な現象でこのアミノ酸類が活性化された事で原始の海で生命は生まれた。億年単位で生命体の発生・死滅はあったが、約5億年前にコケ・シダ植物が海から地上に進出し、これが進化して水辺近くに森が出来た。森では落ち葉が微生物の活性を促し、大量の有機物を創り出した。これらが進化して徐々に地表は、植物以外の生命にとって住みやすい環境・森林を育てて行った。約20万年前、新生代の最終期、ホモ・サピエンスが誕生した。

＊FAOによれば、森林減少は、
1990年の地球の森林面積：40.8億ha
2005年の地球の森林面積：39.5億ha
よって、差引は1.3億ha、１年あたりでは1200万haになる。

1200万haと言う広さは、九州と四国を合わせた程の広さだ。この広さ年々、地球から無くなって行くと言う。何と恐ろしいことか。

地球誕生４０億年間に４回の大変動があったと言うが、今の人類があまりにも勝手な自然破壊を続けて行くなら「人類が引き起こした破壊の時代」と呼ばれ５回目の大変動を見ることになるのだろうか。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2014.11

11月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
11月16日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

10月5日（第一日曜日）

10月4日、5日の2日間にわたり小原での活動を行いました。4日は夕方より小原集会所にて小原の方にお集まりいただきご飯会を開きました。小原本陣祭を来月に控え、それに向けて小原の方との交流を行いました。

私は今回初めて小原での活動に参加しました。小原の方と初めてお会いし、地元の人の温かさを身をもって感じることができました。Forest Nova☆でカレーを準備していたのですが、小原の方がから揚げや飲み物を持ってきてくださりとても賑やかなご飯会になりました。

ご飯会の参加者九名の自己紹介に始

まり、小原地区の現状、これからどのように活動していけばよりよい環境が作れるのかについてお話をお聞きしました。

お話の中で、高尾山の相模湖側は手入れがされず、間伐がされていないため下草もなく、森の状態としては非常に悪くなっていると初めて知りました。高尾山といえば観光地として登山道も整備されている印象でしたが、それは東京都側でだけであったことにとても驚きました。

お話を通じて、小原の方の地元に対する愛情をとても強く感じました。よりよい小原にするために皆で話し合い、行動に移す。なかなか難しい事だとは思いますが、これは私達が今後活動していく中でしっかりと行っていくことが必要だと思いました。

5日は台風の影響により小原の森に入ることができなかったので、相模湖駅近くの桂北公民館で「森の達人」についての勉強会に参加しました。「森の達人」とはどのような人なのか二人一組で考え、各組二、三個ほど項目を発表したのち、自分達はどの程度達人になれているのか、自己採点をしました。今までなんとなく考えたことはあったが、いざ項目を並べ一つ一つ考えてみると自分たちがいかに未熟であるかを自覚でき、もっと勉強をしなければならないと感じました。

一時間ほど勉強会をした後、嵐山に行き雨による経路の被害状況を確認しました。損壊箇所はほとんどなかったが、経路を雨水が流れていて水溜りができ歩きにくくなっているところがありました。その箇所については枕木を斜めに設置し直すなどの対策が必要と考え以後の活動で補修作業を行いたいと思います。

私自身初となる小原での活動を通して、これから小原の方との交流をもっと深め、勉強をさせてもらったり、意見交換をしたいと思いました。森だけでなく、そこに住む人々のことも考え、「森と人との共助共生社会を目指す」ために活動していきたいと思います。

中里　皓太（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

10月19日（第三日曜日）

すがすがしく晴れ渡った青空。ケヤキの葉が黄色に茶に色づき始めている。参加６５名。今日はWWＦジャパン（公益財団法人　世界自然保護基金ジャパン）の取材が入ることになっている。嵐山での活動の模様を隔月発刊の会報に掲載したいとのこと。取材陣は佐久間さん初め３名。私が終日ご案内し、各班・グループの活動の様子を見ることに。

お花畑班は夏からの草取りに余念がない。この時期に雑草を抜いておけば後は心配なし。

森林整備班は先月同様、材降ろしのための木道づくりを行っている。急傾斜なのでなかなか難しい作業ではあるが、フォレストノバＯＢの瀧澤さん、神宮さんの若い力も加わり順調に進んでいる様子。ＭＯＭＡ工房脇と栗畑では材の仮置き場建設のための柱材のほぞ穴と梁材づくりが進行中（写真上）。徐々にではあるが仮置き場の輪郭が見えつつある。ＷＷＦの佐久間さんは各班の担当者に活動内容や取り組む動機などに時間をかけて聴きとりを行う。熱心な取材姿勢のあまり、この後のフォレストノバ植生調査班、望星の森のトチノキ毎木調査（樹高、胸高直径の計測）を取材した時点（写真下）で

お昼になってしまった。
　午後はまだ見ていない班をまわる。ノバの森林散策班・釜谷君からノバの森の説明を受けた後、台風で荒れた径路の補修を行っていた森林整備班・小林さんを取材。小林さんは会社を新しく設立し、目下、三次元レーザースキャナーで林分にあるそれぞれの木々の位置、樹高・直径、材積量を瞬時にして記録できる画期的な事業を展開している。今後の森林経営の在り方を大きく変えることになるだろう。
　佐久間さんは相変わらずというべきか、小林さんの話に夢中になるあまりかなりの時間を費やしている。終礼までの時間がなくなってきた。残る高井戸中の取材は…。何とかセーフ。中学生たちは急斜面での間伐を行っていた。若い力を結集させた作業の様子にWWＦ取材陣も大いに関心を示し、終礼時、緑のダムの諸活動を高く評価する感想をいただく。WWＦのお蔭で各班の活動の様子をつぶさに見学でき、参加メンバーそれぞれの森への思いを改めて感じさせられた一日であった。

追記
　定例活動日の二日前、相模原市緑台小学校４年生の森林体験教室が嵐山で実施された。午前中は森林散策、午後は間伐体験。生徒たちも森に入るとふだん以上にいきいきとした表情を見せていたのが印象に残っている。終礼時にお礼の意を込め、森の、緑の歌を吉川先生の指揮のもと生徒全員で合唱。その澄んだ天使の歌声は居合わせたスタッフの胸に深い感動を与え、涙した者もいた。永遠にふれたようなひとときであった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
緑のダム運動、河口湖の森より「自然の恵みに感謝・前編」

　相模川の源流と言われる富士五湖が位置する富士河口湖町，霊峰富士山を始めとして素晴らしい大自然に恵まれたこの町に赴任してきたのは、平成24年4月。九州の農村に生まれ育った私は、富士登山を始めとして富士河口湖町の山々を巡り、故郷に帰ったような喜びに満たされました。私の勤める能力開発研修所に生える栗や白樺の大木が空洞化して枯渇状態になって、近所の方から落ち葉や落下下枝の苦情が多く寄せられましたので、これらを伐採整理しました。

　裏山は「天上山」と言われ、富士山を遥拝する頂上には、小御岳神社の祠がまつられ、聖なる山とされています。六月六日は、地元崇敬界会の皆様が集まって年祭りが行われています。
　私も毎年参列しますが、そこの神木と言われるモミの大木が枯れてしまいました。私たちが研修所の樹木を整理する様子を見られてか、崇敬界の代表数名が来られて、枯れた古木三本の伐採処理を依頼されました。これを機に「天上山」の整理、登山遊歩道補修を進めるに至りまして、登山される方々や地元の方の評判となったようです。富士河口湖町の議員さんたちが視察に来られ、環境保存に貢献したと言う事で、河口湖町から善行表彰されることになりました。
　富士山が景観・文化の点で世界遺産登録が進められる中、素晴らしい自然に恵まれた富士河口湖町では、森林の環境保全にも目が向けられ、森林地権者の方々も無関心で居られなくなったようです。私たちに自分所有の山も見てほしいと依頼されることが多くなりました（続き来月号）。

岩本　悟（富士河口湖能力開発センター研修所長）

[連載１]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

本当？不思議だなあ！“The Sense of Wonder”

　1961年10月。小学4年生だった私は、一面が漆黒の闇に包まれようとする肌寒い中、広島県と島根県の県境の道後山の山頂に担任の先生と悪ガキ3人がボーと無言で立ったまま目を凝らしていた。先生は私に「小林には何が見えるか？」と聞いてきた。「…いや別に何も･･･」私には何も見えなかった。「よーく見てみろ！」と先生。気がつくとそれは美しい満天の星空だった。星座が言えるか？先生は理科の先生で天文が専門だった。教科書とは違うあまりの星の多さに感激し、体が震えるのを覚えている。「実はな、これにはこんな物語があるんだよ」とギリシャ神話を話してくれた。私は、ギリシャがどこにあるかよくわからなかったが、世界中の人が同じ星を見て、しかも何万年も前から変わっていないことに疑問と得体の知れない感動を感じた。そして、宇宙と人間の一体感みたいな感じを知った。1961年は逆さにしても1961年なので良く覚えている。

　ただ、気弱なだけが取り柄の私が、児童会長や生徒会長など宇宙の操り人形になったのは、この時見た、星々のせいだったのかも知れない。大学では、何故かワンダーフォーゲル部に所属し、卒業時はその部長を務めるなど、自分でも不可解な脈絡が解けないままである。サラリーマン時代は、山には縁の無い生活を送ったが、大病患い入院していた時、頭の中にいつもあの満点の星空があった。それから今、緑のダムで「きこり」修行のため、山の中に立っている。

　WONDERは不思議だなあ！という心のときめきだ。そのときめきを「ful＝いっぱい」持つことを「full of wonder」という。これが「wonderful」の語源とされている。

　人は、感動を夢とし、夢を実現することに一生を賭けるものだ。感動が無ければ夢は生まれない。借りてきた夢など意味を持たない。自分にしか無い夢とは、遥か遠くを追いかけることではなく、自分の立つ場所を深く掘り下げることなのかも知れない。いつの頃からか”The Sense of Wonder”は私の心の羅針盤となっていた。

小林　照夫（本会、監査役）

※センスオブワンダー、1907年米ペンシルバニア生れの海洋生物学者レイチェルカーソン、ガンに冒され５６歳の生涯を閉じる最後の作品

[報告２]

橋本こどもセンター木工教室

　ForestNova☆では九月二十日に橋本こどもセンターで地元の三つの小学校の一から四年生の子ども達を対象に木工教室を行いました。この木工教室は相模原市立環境情報センターを経由して、橋本こどもセンターからの依頼をForestNova☆が受け、木工教室に参加した子ども達に対して、森のもの（木材や木の実、木の枝など）を使って木工を楽しんでもらい、自分の生活は森と近いところにあるということを知ってもらうために行いました。

　木工教室には、計三十八人の子どもたちが参加してくれました。会場に入った子どもの中には緊張しているのか、そわそわしている子どももいましたが、会場の子どもの人数が増えていく内に、他の子どもやForestNova☆のメンバーと話して仲良くなり、始めの挨拶が始まるまでに和やかな雰囲気になっていました。

　始めの挨拶の後に、生活と森とのつながりについて説明を行いました。そこでは地図から見ても相模原市はとても森に近いこと、生活の中で使用している食器や食材などを例に挙げ、生活の中に森からの恩恵を受けているものがあり、自分たちも森とつながりをもっていることを伝えました。次に、子ども達に学校にあるものの中で、木からできている物を挙げてもらったのですが、普段から使っている物や目にする物は、ほぼ全員が知っていたのですが、使用する機会が少ない物や木の原型を想像しにくい物については知らない子どもがいました。

そして、説明が終わるとようやく木工体験です。木工体験でつくるオブジェにテーマはなく、子ども達自身に自由に作成してもらいました。また木工体験の時間は一時間しかとれず、思い通りに木の板に木の実が着かなく試行錯誤している子どももいれば、自分の家や飼っている動物をオブジェとして表現している子もいて、木工体験として一口にオブジェ作りと言っても、一つ一つの作品でその子の個性が出ていて、私がこういった木工教室を担当するのは初めてで楽しいと思うとともに、これからの木工教室で子ども達に意味のあるものができるのではないかと思いました。

木工教室が終わると、子ども達に木工教室のアンケートを記入してもらったのですが、「森が面白いなと感じた」「こういった機会をまたつくってほしい」という意見があり、ForestNova☆として来年もこういった子ども達に木工の楽しさを通して木の持つ温かさを感じてもらったり、森に対して何かしようと思ってもらえるようなイベントを行っていきたいと思いました。

釜谷　優太（Forest Nova）

[連載２]
相模湖・若者の森づくりから

相模湖嵐山の森には中学生やその卒業生が多く参加しています。その中学生や卒業生たちが「私と森、自分自身のなかの森」というテーマで、自分自身にとっての森づくりについて語る、という活動を行っています。彼らの活動である地球環境部「なみすけの森づくりプロジェクト」ニュースレターからその思いを転載していきます。今回は、卒業後、工学系の高校で学ぶ高校生が考える森の姿についてご紹介します。

私が初めて森での作業をしたのは中学２年の夏の小菅村での研修でした。そのときはただひたすら無我夢中でできる、楽しいものだと思っただけでした。現在私は高校１年になり、今でも森に通っています。今まで夢中になったものはありましたが、あまり長続きはしませんでした。では一体なぜ森での活動は続けることができているのか―それは私自身まだわかっていません。ただ、これからも継続しようと思っています。

今後は新たGISというGPSで位置情報を取得し、その情報を地図に表示するというものを始めました。それを活用し、間伐した木のデータ管理をしたりと、新しい工学的な森管理にも取り組んでいきたいです。実際やってみたところ、人工衛星の関係で正しい位置情報ではなかったりと、課題があるので試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思います。

工学は人工的に指示を出し、それに準じて動きます。それと違って、森には長い年月があり、どうなるかわからない、これからこうなるという明確な答えがないものです。100年後、森の中はこうなるだろう、そんなことが知れたら楽かもしれません。ただ、そんな単純なものでは面白くないと思います。単純ではないからこそ魅かれるところがあると、作業を通して思っています。それがいわゆる神秘的・幻想的という森のイメージとつながっているのだと思います。

これからは自然科学としての森だけではなく工学の面でとしての森も活動していきたいです。

木村　縁（本会、会員）

木村さんは緑のダムで現在進めている国際認証の継続審査のために用意しているGISデータを現地で集めている若者です。これらのデータは本会ウェブでも公開していますのでぜひご覧ください。

【事務局からお知らせ】

小原本陣祭に出展します

県下で唯一残る本陣(参勤交代で大名が宿泊した宿)という重要な歴史的資源を地域の活性化につなげるとともに、江戸時代の歴史文化を後世に伝えていくために開かれる祭りです。（神奈川県HPより抜粋）このお祭りに、本会、ForestNova、ForestInfo、さがみ湖 森・モノつくり研究所で出展いたします。ぜひお越し下さい。

＜開催概要＞

○平成26年11月3日（月・祝日）
午前10時から午後4時まで
（注）大名行列は午後0時45分から午後2時15分まで

○甲州街道小原宿本陣（相模原市緑区小原698-1）及びその周辺

○公式ホームページ
http://obarahonjin.com/

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、一日も休まず“継続は力”。）

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版